



ヒメツルソバ（姫蔓蕎麦） <タデ科・イヌタデ属>

ツル性の多年草。ヒマラヤ原産の帰化植物。溝や畑、道路や空き地、石垣の隙間などに生え、日本にはロックガーデン用として明治時代に導入され野生化している。花は、初夏から晩秋にかけて1ヶ月ほどのピンクの花が丸い球状になって咲く。茎は立ち上がり横に這うように広がり根を下ろす。性質が丈夫であるためグラウンドカバーとして用いられる。名は、花や葉がツルソバ（蔓蕎麦）に似ていることから。・・・▼ピンクのツブツブの花が集まり、まるで薄桃色の金平糖のようなヒメツルソバ。通りすがりの家のブロックの隙間から次々と花をのぞかせていた。在来種より繁殖の勢いが勝る外来種の帰化植物はあまり繁茂して欲しくはないが、何とも可愛らしい。▼今年は当たり前のことが許されない大変な年であった。しかし、今年の紅葉は美しかった。透き通るように赤く染まったモミジ。近くのアカシデやイチョウの朱色や黄色も見事だった。▼晩秋を迎え、落葉樹の樹々たちはいつも通り、翌年の準備のために葉を落としている。自然界の目に映る大いなるやさしさと当たり前の姿に心なごむむ思い。迎える2021年はどうか希望に満ちた年となりますように。 ～佐伯区五日市 2020・11月～